社協うつべだより 第3号

令和6年12月20日
内部地区社会福祉協議会・広報部

賑わった住民交流の輪　第56回内部地区文化祭

第56回内部地区文化祭(主催：内部地区社会福祉協議会)が11月10日(日)、内部小学校を会場として開催されました。体育館では舞台発表、図書室・図工室では作品発表、校庭では物品販売や飲食、遊び、ゲームなどのブースが設けられ大勢の子供や大人達が各会場を行きかい賑わいました。

特別出演の内部中学校吹奏楽部の演奏は地域住民にとって年に一度の楽しみな機会です。体育館いっぱいの聴衆を前にコンクールでの演奏曲を中心にポップスなど聴衆にも配慮した曲を演奏してくれました。　今年は例年に比べて来訪者が多く、広い校庭には人があふれていました。わかたけや聖母の家・采女の里のブースでは子どもたちが輪投げやボール投げなどのゲームを楽しんでいました。北コマツファームや内部農園の地元農産物品販売や、うどん、みたらし団子、綿菓子、フランクフルトなど飲食ブースには長い列ができ特に堀製麺さんのうどんでは30分待もありました。校庭の中央では子育連による地区対抗玉入れ大会とビンゴゲームが行われ子供達でにぎわいました。内部地区自主防災のブースでは消防自動車試乗、煙体験に加え今年は地震体験車がきて長い列ができていました。この文化祭には地域で活動している多くの団体や機関から出店やイベントの協力をいただき、地区内74事業者の皆様にもご協力をいただきました。皆様に厚くお礼申し上げます。

内部社協 山中会長挨拶

若い世代の力を借りて内部地区を盛り上げていきたい

舞台発表

内部大正琴すみれ会の演奏

特別出演

文化祭の華は内部中学校吹奏楽部による大迫力の生演奏です。内部中吹奏楽部は今年も８月４日(日)三重県吹奏楽コンクールで金賞を受賞し県代表として8月24日東海大会に出場、おしくも全国大会出場はなりませんでしたが金賞に輝きました。

内部幼稚園によるダンス

うつべスター新体操教室による演技

社交ダンスクラブ によるダンス

内部小学校４年生による合唱

Amaze新体操

山口亮と内部クインズによる歌とダンス

内部東小学校４年生によるリコーダー演奏

体験ひろば☆こどもスペース四日市によるダンス

DanceチームCoconattuによるダンス

作品展示

写真、絵画、手芸などの作品展示

書道教室の作品展示

写真、絵画、彫刻などの作品展示

人権協による啓発ポスター展示

屋外イベント

北コマツファームによる野菜格安販売

内部農園による野菜格安販売

ゼロエンショップによるバルーンアート

うどん販売に長い列ができました

スイセンの無料提供の様子

子育連によるビンゴゲームの様子

わかたけの輪投げゲームの様子

地震体験車に長い列ができました

社協うつべだより　第3号

令和6年度 地域の出来事 その2（7月～11月）

ホームページかわら版記事より 内部地区の動きをお伝えします

7/14　第40回　内部川清掃を実施しました

予定日の7月7日が早朝から熱中症予防アラート発令で延期となり14日に実施。小雨がぱらつく曇り空で清掃活動には絶好の日和となりました。清掃区間は総延長約10Kmに及び、6区域に分かれています。地域の20自治会と15団体、それに関連部署・企業から3団体、中学生や地区選出議員など合わせて約400人が内部小学校校庭に集まりました。小学生と親子で参加くださった方もおり子供達にはうちわが配付されました。参加者は道路わきや堤防の草むらに分け入りごみを拾って回りました。また一部の参加者と内部中生徒のグループはアレチウリの駆除に取り組みました。内部川清掃は39年前の昭和60年に「内部緑の少年隊」の呼びかけに内部地区子ども会、青少年推進委員会が賛同してスタート、これを受け継いで内部地区社会福祉協議会が主催し、地域の諸団体が共催、関連行政部署が後援する形で行われてきました。ゴミのない美しい内部川を守るため今後も継続して取り組んでいく必要があります。

10/18　四日市は在宅医療先進都市　在宅医療についての講演会開催

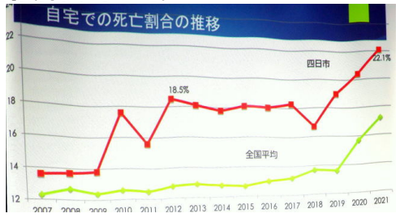
10月18日(金)在宅医療についての講演会が内部地区市民センターで開かれました。「内部地区福祉講座」としてボランティア虹の会と内部地区市民センターが共催で開催しました。コロナ禍で5年ぶりの開催です。講師は笹川内科胃腸科クリニック 院長 山中賢治先生。テーマは「四日市市の在宅医療の現状について～住み慣れた家で自分らしく生きるために～」と題し、四日市市の在宅医療の現状、四日市モデルについて、もしバナゲーム体験、人生会議をする意味について話されました。

○講演の前半は四日市の在宅医療の現状と四日市モデルについて

四日市市医師会では最期は自宅で迎えたいという住民の願いを実現するべく、2007年より在宅医療を普及させるため、訪問看護ステーションの充実、往診が可能な在宅医のリストの作成、在宅医療研究会の発足、地域連携室連絡会の発足、退院時ケアカンファレンスの運用マニュアルの作成、看取りガイド「旅立ちに向けて」を作成、医療・介護ネットワーク会議の発足などの施策を推し進めてきました。その結果、四日市市の在宅死亡率は2021年時点では22.1%（他は病院56.1%、介護施設18.2%）で全国平均の1.3倍となっています。この取り組みは当時の「広報よっかいち」（2013年8月上旬号）で紹介されました。四日市の仕組みは在宅医療の先進地域「四日市モデル」として全国から注目を浴びるようになり、在宅医療の先進例として厚生労働大臣視察（2016.6.20）や新聞（中日新聞2015.12.1）、テレビ（NHKおはよう日本2017.2.16、ガイアの夜明けテレビ東京2017.5.9）などマスコミ報道されました。

○講演の後半は、「もしバナゲーム」体験と人生会議をする意味について

もしバナとは「もしもの時の話し合い」の意味で、人生最後の時のケアや医療に対する希望や心構えを自身で確認するゲーム形式プログラムです。全ての人に必ず訪れる人生最後の時に際し、どこで、どのような介護、どのような医療を望むか、病状が進行しあるいは認知症などにより自身の意思表示ができなくなる前に準備し、自身の希望する介護・医療についての考えをまとめて家族に知らせておくことが重要で、最後が迫っていない元気な今こそやるべきだと強調されました。



10/27　地域交流イベント「波木が丘プチフェス」開催

波木が丘町中公園において「波木が丘プチフェス」が開かれ、大勢の住民がともに楽しみ、大いに盛り上がって親睦を深めました。夏祭りに代わって新しいかたちの町ぐるみ交流イベントとして2022年（令和4年）から開かれてきたプチフェスですが、3回目となる今年も自治会の実行委員会が約半年かけて計画を練り、準備を進めてきました。中公園の広場では例年好評のキッチンカーや地元産トマト、野菜販売が出店し、グラウンドゴルフホールインワン、輪投げ、子どもたちによるキッズダンス、ボール拾い、マッチ棒クイズなどスタッフ手作りのゲームが行われました。今年は新たに塗り絵・工作、似顔絵、地震体験車が加わりました。また今年度新たに自治会の支援のもとスタートした高齢者の暮らしを支援する「波木が丘フレンドリーネット」もコーナーを設けてPR活動を行っていました。催しの最後には豪華賞品の当たるお楽しみ抽選会が行われ大勢の子供と一緒に大人も楽しんでいました。

大人気！！土窯ピザ

はぎが丘カフェによるコーヒーサー

10/30　5年ぶりの史跡巡りバスツアー岐阜県「墨俣一夜城」

今回は岐阜県の谷汲山華厳寺、墨俣一夜城、お千代保稲荷を巡りました。参加者44名を乗せたバスは最初の見学先谷汲山華厳時（揖斐郡揖斐川町）へ。このお寺は延暦17年（798）の創建とされ観音信仰の名刹寺院として有名です。ここでは「戒壇巡り」を体験しました。次は墨俣一夜城（大垣市）へ。この地は美濃と尾張を隔てる国境の川長良川、犀川が合流する一帯で古くからの街道も通る要衝の地で、秀吉がこの地に一夜で城を築きその功により信長に取り立てられた話は有名ですが、昭和52年（1977）に発見された古文書「武功夜話」に築城の次第が記されていることが判明。大垣市はこれに基づいて平成3年（1991）に犀川のほとりに四層六階建て城郭天守の墨俣一夜城を建て大垣市墨俣歴史資料館としています。内容は墨俣築城と秀吉の歩んだ道を中心とした展示構成で、3班に分かれて観光ボランティア「ふるさと大垣案内の会」の方から資料館内の築城にまつわるパネル、模型、絵図の説明を受けました。熱のこもった郷土愛あふれる説明にわれわれ采女城跡保存会の活動に通じるものを感じました。最後のお千代保稲荷は毎月末には月越し参りで大勢の参詣者で賑わいますが、月末前のこの日は普段の人出でわが采女城跡への来場者繁盛と保存会の隆盛を祈願してきました。

11/13　高齢者助け合い活動　波木が丘フレンドリーネットができました

波木が丘プチフェス（10月）に出展
健康チェックと会員募集を実施

（設立の経過） 波木が丘町は1980年代前半にできた住宅団地で、その当時入居した住民が多く高齢化が進んでいます。高齢化率は今年の4月現在47.7%と内部地区で最も高くなっています。高齢化に伴う課題も多く、地域での暮らしを維持するためには助け合いが必要だとの声が出ていました。その声を受けて令和5年度の自治会では高齢者の助け合い活動の必要性や参加希望に関するアンケートを行い組織づくりを検討してきました。令和5年秋からは四日市市社会福祉協議会の助言を受け組織作りに取り組み、本年2月有償ボランティアによる助け合い組織「波木が丘フレンドリーネット」が出来ました。同時に「住民主体サービス実施団体登録」を申請し訪問型サービスを行う団体として登録されました。

（実際の活動状況） 4月から5月は準備期間として必要な書類の整備や住民への説明会を実施し6月から活動を始めました。会員は支援者と依頼者、協賛者の3つのタイプがあり、お互いに助けあうという会の趣旨から年会費は全て1000円となっています。活動開始時に比べ10月末現在の会員数は徐々に増加しています。活動の依頼は4名のコーディネーターが2名ずつの組になって毎週水曜日の午後に地区の集会所に待機して受けつます。実際の依頼内容は、庭木の枝切りや草取り、病院への付き添いが多く10月の依頼内容は5件でした。

（活動を始めてみて） 活動を始めて5か月が経ちました。実際にやってみると依頼があった時に依頼者と支援者で実施内容や謝金についてよく打ち合わせておくことが大切と分ってきました。やり取りの中で町内のコミュニケーションの機会が増え互いに知り合いになることが多くなり活動の成果と思っています。

11/15～17　第4回　采女が丘「趣味の作品展」が開催されました

文化、芸術の秋に親しんでもらおうと采女が丘交流サロン主催の近隣住民による「第4回采女が丘・趣味の作品展」が11月15日（金曜日）から17日（日曜日）の3日間、采女が丘コミュニティセンター内で開催されました。絵画、写真、工芸、生け花、手芸、絵手紙、陶芸、木工作品、編み物、折り紙など近隣住民の方々による多種多様な作品が展示されました。

来場者の様子

プロ並みの人形

釘を使わない木工椅子

コロナ感染が収束しているとは言え、コロナ、マイコプラズマ肺炎やインフルエンザの感染対策を怠らずマスク着用、手指消毒、検温を徹底、受付時には記名、住所、連絡先などを記載し万一に備えました。会場には団地の方々をはじめ近隣住民の方々が来場され、賑やかに会話を楽しみながら見学や交流をされました。「うちの（奥様・ご主人）が出品しとるから見に来た」、「近所の人の名前が出ていて驚いた」、「見に来たら素晴らしかったので知り合いの人にも薦めた」、「今回も大作が多く、趣味の範疇を超えた作品ばかりですね」、「みなさんプロの腕前ですね」、「この作品に惚れました。家に持って帰りたい」と笑顔でおっしゃる方などたくさんの声をいただきました。展示の作品はどれもコツコツと取り組まれた心のこもった世界に一つの宝物ばかりです。繊細で実用的な作品からプロ顔負けの作品まで「素晴らしい、すごい」の一言でした。出品者からは、「褒めてもらってうれしかった。やってきてよかったです。」、「また次回も出します」、「私も作ってみようかな」など多くの声が聞かれました。趣味の作品展を通じて地域の方々と繋がり、絆の輪が少し広がったような気がしました。